



2026年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年7月30日

上場会社名 株式会社ワコム 上場取引所 東
 コード番号 6727 URL <https://www.wacom.com>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 兼 CEO (氏名) 井出 信孝
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 兼 CFO (氏名) 小島 周 TEL 03-5337-6502
 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無：有
 決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年3月期第1四半期の連結業績（2025年4月1日～2025年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期第1四半期	24,505	△16.0	2,723	7.9	2,376	△34.8	1,638	△39.0
2025年3月期第1四半期	29,174	20.9	2,525	198.1	3,643	37.1	2,683	30.4

(注) 包括利益 2026年3月期第1四半期 2,085百万円 (△39.8%) 2025年3月期第1四半期 3,467百万円 (20.5%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期第1四半期	12.18	—
2025年3月期第1四半期	18.54	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2026年3月期第1四半期	66,063	29,986	45.4	222.94
2025年3月期	70,771	30,859	43.6	229.43

(参考) 自己資本 2026年3月期第1四半期 29,986百万円 2025年3月期 30,859百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	0.00	—	22.00	22.00
2026年3月期	—				
2026年3月期（予想）		11.00	—	11.00	22.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2026年3月期の連結業績予想（2025年4月1日～2026年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	110,000	△4.9	11,500	12.6	11,500	10.6	8,500	62.7	63.19

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料 10ページ 「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2026年3月期1Q	135,000,000株	2025年3月期	146,000,000株
② 期末自己株式数	2026年3月期1Q	495,186株	2025年3月期	11,495,186株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2026年3月期1Q	134,504,814株	2025年3月期1Q	144,757,355株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料 4ページ 「1. 経営成績等の概況 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算補足説明資料の入手方法について)

当社は、決算説明資料を当社ウェブサイトに掲載しております。なお、従来、四半期決算短信に記載していた「3. 補足情報」は、「2026年3月期 第1四半期決算短信」より廃止しておりますので、決算説明資料をご参照ください。

(端数処理の変更について)

当社は従来、端数処理を表示単位未満四捨五入としておりましたが、「2026年3月期 第1四半期決算短信」より表示単位未満を切り捨てて記載することに変更しました。当該変更に伴い、比較情報についても切り捨てへ組み替えて表示しております。

(金額表示単位の変更について)

当社の四半期連結財務諸表に掲記される科目その他の事項の金額については、従来、千円単位で記載しておりましたが、当第1四半期連結会計期間及び当第1四半期連結累計期間より百万円単位で記載することに変更しました。なお、比較を容易にするため、前連結会計年度及び前第1四半期連結累計期間についても百万円単位に変更して記載しております。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	
四半期連結損益計算書	7
四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)	10
(セグメント情報等の注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(重要な後発事象の注記)	11

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

当第1四半期連結累計期間(2025年4月1日から2025年6月30日まで)における当社グループを取り巻く事業環境において、世界経済は、ロシア・ウクライナ情勢に加えて中東地域に起因した地政学的緊張が続くなか、インフレ率の鈍化が見られたものの、米国の関税政策の影響により先行き不透明感が高まるものとなりました。このような情勢下、IT市場では、モバイル、クラウド、AI、ブロックチェーンなどに関連した技術革新や利便性向上などが見られました。なお、同期間の主要通貨に対する円相場は、各国の景気や金融・貿易政策等に対する見方を反映し、前年同期の平均レートと比較すると対米ドル、対ユーロともに円高となりました。

このような事業環境のもと、当社グループは、2025年5月9日に発表した2029年3月期を最終年度とする中期経営計画『Wacom Chapter 4』を推進するため、当社がこれまで磨き上げてきた要素技術をさらに高め統合し、新たな「かく」体験を実現する技術革新に取り組んでおります。また、コミュニティのユースケースを深く理解、発掘すべく、パートナーとともに体験とコミュニティの共創にも努めております。そして、「創る(Creation)」「学ぶ/教える(Learning/Teaching)」「はたらく/楽しむ、その先へ(Work/Play & Beyond)」「より人間らしく生きる(Well-being)」といった4つのユースケース領域で、「かく」こと全般の『総合的な体験を届ける“道具屋”』として事業モデルを一段と進化させるための戦略の展開を図っております。当第1四半期連結累計期間では、各ユースケース領域において、事業モデルを進化させるための戦略を協業パートナーと推し進めるとともに、生産性やコスト構造の改善にも努め、経営判断の質の向上を通して経営課題に取り組みました。

テクノロジーソリューション事業については、デジタルペン技術(アクティブES:Active Electrostatic、EMR:Electro Magnetic Resonance)の事実上の標準化に取り組むとともに、タブレット・ノートPC市場での利用拡大や教育市場での事業機会の拡大に努めました。当第1四半期連結累計期間では、OEM顧客の需要動向や米国の関税政策による影響を受けた需要期の変化等から、当事業の売上高は前年同期を下回り、その結果、セグメント利益も前年同期を下回りました。

ブランド製品事業については、創造性発揮のための最高体験をお客様にお届けするため、技術革新に取り組むとともに、顧客サービスの向上に努めました。当第1四半期連結累計期間では、一部機種の販売終了による需要動向の変化等から、当事業の売上高は前年同期を下回りましたが、セグメント利益は前期に実施した事業構造改革が奏功し、4期振りとなる黒字化を達成しました。

中期経営計画『Wacom Chapter 4』の戦略軸に沿った全社的な取り組みとしては、前期に実施したブランド製品事業の事業構造改革を確実なものとするべく、海外一部地域を日本からの直売モデルに変更するなど販売オペレーションの効率化を図るとともに、商品ポートフォリオの刷新にも努め、2025年6月には描き心地と集中しやすさを追求したミドルレンジのディスプレイ新製品となる「Wacom Cintiq(ワコム シンティック)」を発表しました。また、企業価値の中長期的な向上を目指す観点からは、当社グループが持つデジタルペンの技術価値や各要素を「ペンとインクの統合体験」として市場実装すべく、次世代の成長エンジンとなる技術開発を推進し、積極的な投資を行っております。2025年4月には業務用モニター上でのインク体験といった新しいユースケースを開拓するため SYNCORE TECHNOLOGY(シンコアテクノロジー)社に、2025年5月には医療現場/メディカルワークフローの中で「かく」体験を共創するためHoloeyes(ホロアイズ)株式会社にそれぞれ出資しました。

サステナビリティの取り組みについては、中期経営計画『Wacom Chapter 4』を補足するため、2025年6月に「Wacom Story Book Issue 2『薄い本』」を発行しました。この「Wacom Story Book」シリーズは、ワコムに関わる人々の多様なストーリーを集めたアンソロジー(選集)形式の読み物となっており、「Issue 2」は4つのテーマ「Chapter 4 サイドストーリー」「コミュニティと共に、生きる」「わたしたちのサステナビリティ」「わたしたちのガバナンス」の小冊子で構成されております。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高が24,505百万円(前年同期比16.0%減)、営業利益は2,723百万円(同7.9%増)、また、営業外費用において為替差損333百万円(前年同期は営業外収益において為替差益1,102百万円)を計上したことなどが影響し、経常利益は2,376百万円(同34.8%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,638百万円(同39.0%減)となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。なお、当第1四半期連結会計期間より、各セグメントの業績説明における記載順序、記載方法を一部変更しております。

① テクノロジーソリューション事業

販売数量の減少に加えて円高や米国の関税政策の影響によりOEM提携先からの需要期が変化したことなどにより、EMRテクノロジーソリューション、AESテクノロジーソリューションともに前年同期の売上高を下回りました。

これらの結果、テクノロジーソリューション事業の売上高は17,971百万円（前年同期比17.3%減）、セグメント利益は3,593百万円（同25.7%減）となりました。

② ブランド製品事業

商品ポートフォリオを刷新するなか、新製品の投入によりディスプレイ製品のミドルレンジ及びペンタブレット製品のハイエンドの売上高が前年同期を上回りましたが、一部機種の販売終了を含む販売数量の減少に加えて円高などにより、事業全体としては前年同期の売上高を下回りました。

これらの結果、ブランド製品事業の売上高は6,534百万円（前年同期比12.2%減）、セグメント利益は前期に実施した事業構造改革による固定費削減の効果から447百万円（前年同期はセグメント損失883百万円）となりました。

(2) 当四半期の財政状態の概況

① 資産、負債及び純資産の状況

当第1四半期連結会計期間末における資産の残高は、66,063百万円となり、前連結会計年度末に比べ4,707百万円減少しました。これは、商品及び製品が1,872百万円増加し、現金及び預金が4,938百万円、流動資産のその他が2,076百万円減少したことなどによるものであります。

負債の残高は、36,077百万円となり、前連結会計年度末に比べ3,834百万円減少しました。これは、賞与引当金が956百万円、流動負債のその他が2,851百万円減少したことなどによるものであります。

純資産の残高は、29,986百万円となり、前連結会計年度末に比べ873百万円減少しました。これは、親会社株主に帰属する四半期純利益1,638百万円、その他有価証券評価差額金の増加451百万円により増加し、剰余金の配当2,959百万円により減少したことなどによるものであります。これらの結果、自己資本比率は前連結会計年度末に比べ1.8ポイント増加し、45.4%となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結累計期間における現金及び現金同等物の残高は、19,425百万円となり、前連結会計年度末に比べ4,938百万円減少しました。

当第1四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、686百万円の支出（前年同期は1,752百万円の支出）となりました。これは、税金等調整前四半期純利益2,260百万円、賞与引当金の減少額956百万円、棚卸資産の増加額1,555百万円、未払又は未収消費税等の増減額1,101百万円、その他の流動資産の減少額901百万円及びその他の流動負債の減少額2,735百万円などによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、951百万円の支出（前年同期は172百万円の支出）となりました。これは、有形固定資産の取得による支出568百万円及び投資有価証券の取得による支出389百万円などによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、2,973百万円の支出（前年同期は4,792百万円の支出）となりました。これは、リース負債の返済による支出122百万円及び配当金の支払額2,850百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年5月9日の「2025年3月期 決算短信」で公表した2026年3月期の通期連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	24,364	19,425
売掛金	11,603	11,799
商品及び製品	7,063	8,935
仕掛品	332	294
原材料及び貯蔵品	5,688	5,367
その他	7,463	5,386
貸倒引当金	△15	△8
流動資産合計	56,498	51,199
固定資産		
有形固定資産		
その他(純額)	4,368	4,211
有形固定資産合計	4,368	4,211
無形固定資産		
その他	1,331	1,263
無形固定資産合計	1,331	1,263
投資その他の資産		
その他	8,572	9,388
投資その他の資産合計	8,572	9,388
固定資産合計	14,272	14,863
資産合計	70,771	66,063
負債の部		
流動負債		
買掛金	11,109	11,294
短期借入金	5,000	5,000
未払法人税等	551	496
賞与引当金	1,327	370
役員賞与引当金	60	71
製品保証引当金	170	178
買付契約評価引当金	1,754	1,699
事業構造改善引当金	73	68
資産除去債務	11	11
その他	10,969	8,118
流動負債合計	31,028	27,308
固定負債		
長期借入金	7,000	7,000
退職給付に係る負債	1,023	1,030
資産除去債務	269	272
その他	590	466
固定負債合計	8,883	8,769
負債合計	39,911	36,077

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,203	4,203
資本剰余金	4,048	4,044
利益剰余金	27,938	19,002
自己株式	△7,961	△342
株主資本合計	28,228	26,907
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	361	812
為替換算調整勘定	2,210	2,208
退職給付に係る調整累計額	59	57
その他の包括利益累計額合計	2,631	3,078
純資産合計	30,859	29,986
負債純資産合計	70,771	66,063

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)
売上高	29,174	24,505
売上原価	19,105	15,277
売上総利益	10,068	9,227
販売費及び一般管理費	7,543	6,503
営業利益	2,525	2,723
営業外収益		
受取利息	39	4
為替差益	1,102	—
未払配当金除斥益	4	3
償却債権取立益	—	5
その他	4	4
営業外収益合計	1,151	18
営業外費用		
支払利息	29	31
為替差損	—	333
その他	3	0
営業外費用合計	33	365
経常利益	3,643	2,376
特別利益		
固定資産売却益	0	0
特別利益合計	0	0
特別損失		
固定資産売却損	0	—
事業構造改善費用	39	116
特別損失合計	40	116
税金等調整前四半期純利益	3,603	2,260
法人税等	919	621
四半期純利益	2,683	1,638
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,683	1,638

(四半期連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)
四半期純利益	2,683	1,638
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△16	451
為替換算調整勘定	800	△1
退職給付に係る調整額	△0	△2
その他の包括利益合計	783	447
四半期包括利益	3,467	2,085
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,467	2,085
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	3,603	2,260
減価償却費	542	438
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△9	△6
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△957	△956
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	8	11
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△8	3
受取利息及び受取配当金	△39	△4
支払利息	34	32
為替差損益 (△は益)	△1,308	437
固定資産売却損益 (△は益)	0	△0
売上債権の増減額 (△は増加)	△669	△203
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△1,992	△1,555
仕入債務の増減額 (△は減少)	3,780	170
未払又は未収消費税等の増減額	△471	1,101
その他の流動資産の増減額 (△は増加)	△1,747	901
その他の流動負債の増減額 (△は減少)	△2,353	△2,735
その他の固定資産の増減額 (△は増加)	6	△6
その他の固定負債の増減額 (△は減少)	△3	△35
その他	11	6
小計	△1,574	△141
利息及び配当金の受取額	39	4
利息の支払額	△65	△63
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△151	△486
営業活動によるキャッシュ・フロー	△1,752	△686
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△163	△568
無形固定資産の取得による支出	△9	—
投資有価証券の取得による支出	—	△389
有形固定資産の売却による収入	0	0
敷金及び保証金の差入による支出	△3	△0
敷金及び保証金の回収による収入	3	5
投資活動によるキャッシュ・フロー	△172	△951
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	△1,797	—
リース負債の返済による支出	△209	△122
配当金の支払額	△2,786	△2,850
財務活動によるキャッシュ・フロー	△4,792	△2,973
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,708	△327
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△5,009	△4,938
現金及び現金同等物の期首残高	31,660	24,364
現金及び現金同等物の四半期末残高	26,651	19,425

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等の注記)

I 前第1四半期連結累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ブランド製品 事業	テクノロジー ソリューション 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	7,443	21,730	29,174	—	29,174
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	—	—	—	—
計	7,443	21,730	29,174	—	29,174
セグメント利益又は 損失(△)	△883	4,837	3,954	△1,428	2,525

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△1,428百万円は、報告セグメントに帰属しない当社の管理部門等にかかる費用であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ブランド製品 事業	テクノロジー ソリューション 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	6,534	17,971	24,505	—	24,505
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	—	—	—	—
計	6,534	17,971	24,505	—	24,505
セグメント利益	447	3,593	4,041	△1,317	2,723

(注) 1. セグメント利益の調整額△1,317百万円は、報告セグメントに帰属しない当社の管理部門等にかかる費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2025年5月9日開催の取締役会決議に基づき、2025年5月16日付で自己株式11,000,000株の消却を実施しました。なお、自己株式の消却により、資本剰余金のうちその他資本剰余金の残高が負の値となったため、その他資本剰余金を零とし、当該負の値を利益剰余金から減額しております。

以上の結果等により、当第1四半期連結累計期間において利益剰余金が8,936百万円、自己株式が7,618百万円減少し、当第1四半期連結会計期間末において利益剰余金が19,002百万円、自己株式が342百万円となっております。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(重要な後発事象の注記)

該当事項はありません。